

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 加茂農林高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年1月28日(水) 13:30～15:45
- 3 開催場所 加茂農林高等学校 会議室
- 4 参加者

会 長	大橋 薫子	岐阜県農業大学校長
副会長	長尾 久	農業法人代表
委 員	日比野安平	地域住民
	渡辺 祥二	農業法人代表
	酒向 光世	医療法人管理職
	武田 由美	美濃加茂市教育委員
	井戸 肇	同窓会長
	佐藤 真央	PTA役員
学 校 側	金本 淳	校長
	野村美由紀	事務部長
	斉藤 寧子	教頭
	長屋 貴	教務主任
	玉木 信悟	生徒指導主事
	森本 達雄	進路指導主事
	佐藤 一喜	農場長(欠席)

5 会議の概要(協議事項)

- ・学校長挨拶

(1) 本校の教育活動について(3学科による課題研究の代表発表)

- ・食品科学科「やぎさんの置土産から手土産を やぎさんで地域を笑顔に！」
※ポスター発表
- ・食品科学科「地域由来の花酵母による商品開発」
- ・生産科学科「飛騨牛生産について」※和牛甲子園発表の内容
- ・園芸流通科「切り花の活用について」

(2) 各分掌の反省と次年度の取組について

- ・学校運営について
- ・教務部について
- ・生徒指導部について
- ・進路指導部について
- ・農場部について

6 ご意見・ご提言

- 意見 1：学校運営や各分掌からの評価について概ね達成されている。特にA I の発達で授業や課題の作成で使われるのは、やむを得ない。自分のものとして学んだことを落とし込めるかが大切である。教員側も発問の内容を考えていくべきである。
- 意見 2：自転車の安全教育について、対「車」との事故で、自転車側の方が弱い立場であるのに、悪いと思って対応を間違える事例がある。警察を呼ぶ等適切な対応を常に呼びかけてほしい。
- 意見 3：進路指導については、早い段階から意識づけがなされているようである。今後も専門的な学習内容について目的をもって学ぶ生徒が増えてほしい。
- 意見 4：学習発表が素晴らしく、生徒・先生方の努力がうかがえる。各科それぞれの生徒が専門的な学習の内容に興味を持って、自分の周りのできることを突き詰めてほしい。
- 意見 5：教職員のストレスチェックの結果が県内でも良い結果であった。加茂農林高校の環境と、動植物との関わりがある農業高校という点が、ストレスが少ない職場環境に関係していると考ええる。
- 意見 6：学習発表を拝見し、素晴らしい内容だった。多くの保護者も自分の子供の発表が見たいと思っている。各科の課題研究発表会を保護者や地域へ公開してほしい。
- 意見 7：ヘルメットの着用について、保険適用の条件に「ヘルメットの着用」を絶対としているものもある。今一度保護者に対して、自転車保険の補償の確認をしてもらい、親から子供へ着用の呼びかけをしてもらうと着用率があがってくるのではないかな。
- 意見 8：ロボットやA I の発達で、人的な労働力が必要なくなる職業も今後でてくる。合理性や利便性を重視していくと順応できない人間はどうなるか。上手く利用することも大切である。しかし、A I に依存しすぎでは、農業高校である加茂農林高校の良さがなくなっていくのではないかな。何をぶれずに強みとしてやっていくのか、各科の方向性を見極め、その方向性を学校全体で共有していくことが大切である。それが高校の生き残りにつながると思う。
- 意見 9：農業高校で培った3年間の学びの到達点である知識や経験を、卒業後の人生を展開していくために生かして欲しい。
- 意見 10：学校アンケートの結果から、100%ではないと思うが、生徒が加茂農林高校を楽しんでいることを実感した。卒業後、社会では机上の話が増えてくるが、高校時代の経験は大きな財産となる。加茂農林高校は多くの発表する機会を設けているが、発表をすることで、自己表現の上達や自信につながる。
- 意見 11：進路・生活指導ともに、指導の目が行き届いていることを感じる。また、丁寧に指導をされていることも知ることができた。

7 会議のまとめ

- ・委員に課題研究の集大成である研究発表を参観していただき、本校の教育活動について助言を得る機会とすることができた。また、取組について励ましの言葉や前向きな意見をいただいた。
- ・学校運営全般や、各分掌からの成果と課題を報告し、次年度にむけて、このまま生かしていくべき内容と、目標としていくべき指針など、来年度の学校運営のあり方について協議ができた。
- ・農業高校で得た知識や経験を、卒業後の進路や地域に生かしてほしいという意見が多く寄せられた。特に、今後ますます増えると予想するA I の利用について、学校としてどう使っていくか指針が必要であるという意見も多く挙げられた。
- ・本協議会は、引き続き学校が抱える課題を地域と共有し、委員の視点から助言を得る場としたい。